

麻疹・風疹・おたふくかぜ混合（MMR）ワクチン

商品名：プライオリクス

MMRワクチンは、麻疹、おたふくかぜ、風疹に対する予防効果をもたらします。

目的

MMRワクチンは次の感染症への免疫を強化します。

- ・麻疹
- ・おたふくかぜ
- ・風疹

これら3つの感染症は人から人へ容易に感染し、髄膜炎、失明、難聴などの深刻な健康問題を引き起こす可能性があります。妊娠中に麻疹に感染すると、早産、流産、死産の原因となる可能性があります。また、風疹に感染すると、胎児の視覚や聴覚への損傷など、深刻な問題を引き起こす可能性があります。MMRワクチンを2回接種することで、長期的な予防効果が得られます。ワクチン接種は、胎児や新生児、免疫力が低下している方など、ワクチンを接種できない人々を守るのにも役立ちます。

対象者

MMRワクチンはすべての乳幼児に推奨されますが、幼少期に接種していない年長児や成人も接種可能です。通常、接種は1歳以降に行いますが、6～12ヶ月の乳児は、以下の場合に接種を考慮します：

- ・麻疹流行地域への渡航時
- ・麻疹患者との濃厚接触時
- ・麻疹集団発生時

接種不適合者

MMRワクチンが必要なほとんどの方は接種可能ですが、生ワクチン（弱毒化した麻疹・おたふくかぜ・風疹ウイルスを含む）であるため、すべての方に適しているわけではありません。

以下の場合はMMRワクチンを接種できません：

- ・妊娠中の方
- ・健康状態や免疫抑制剤の服用により免疫力が低下している方
- ・ワクチン成分に対して重篤なアレルギー反応（アナフィラキシー）を起こしたことがある方

麻疹・風疹・おたふくかぜ混合（MMR）ワクチン

商品名：プライオリクス

接種方法

MMRワクチンは上腕または太ももへの注射で接種されます。
免疫を得るため計2回の接種が推奨されています。
2回連続で摂取する際は、少なくとも1か月の間隔をあけて接種します。

他のワクチンの同時接種

MMRワクチンは黄熱ワクチンを除き、他のワクチンと同時接種できます。
黄熱ワクチンを接種する場合、接種間隔を4週以上空ける必要があります。
MMRワクチンは他の生ワクチンと同日接種が可能ですが、
別の日に接種する場合は、両ワクチン間の間隔を4週以上空ける必要があります。

副反応

全ての医薬品と同様、MMRワクチンにも副作用が生じる可能性があります、
全員に現れるわけではありません。
局所の発赤や疼痛といった一般的な副作用は通常軽度で、2～3日で治まります。
その他にも以下のような症状がでることがあります：

- ・接種後7～11日頃に現れる発疹（麻疹の発疹に似ています）、体調不良、高熱
- ・接種後2～3週間頃に現れる、頬・首・顎周辺のリンパ節の腫れ、
関節痛（軽いおたふくかぜのような症状）

重篤な副作用（アナフィラキシーなどの重度アレルギー反応）は稀です。
接種者はアレルギー反応への対応訓練を受けているため、
万が一、重度のアレルギー反応が出現した場合は、直ちに処置を行います。

研究により、MMRワクチンと自閉症の関連性は認められないことがわかっています。

有効性

MMRワクチン接種後、2週間以内に免疫が形成されます。
2回接種後、約99%の人が麻疹と風疹に対して予防効果を得られ、
約88%の人がおたふくかぜに対して予防効果を得られます。
ワクチン接種後におたふくかぜにかかっても、
症状は通常、接種せずに感染した場合と比べてはるかに軽くなります。

麻疹・風疹・おたふくかぜ混合（MMR）ワクチン

商品名：プライオリクス

輸入ワクチンについて

海外には種々の感染症に対するワクチンがありますが、その中には日本で認可されていないものもあります。プライオリクスはそのようなワクチンのひとつです。大阪大学医学部附属病院の感染症内科外来では、当院の未承認新規医薬品等診療審査部による審議で承認されたワクチンを輸入して提供しています。

プライオリクスは海外で安全性と有効性の実績があり、世界で標準的に使用されているワクチンです。ワクチンを含むすべての医薬品には、重篤な副反応が起きる可能性があります。そのような副反応に対して治療が必要な場合は、健康保険による保険診療で対応いたします。ただし、国内で承認されているワクチンの場合、厚生労働省の審査で接種による重篤な副反応と認められた場合、「予防接種健康被害救済制度」または「医薬品副作用被害救済制度」による補償が受けられますが、未承認ワクチンはこの補償の対象になりません（輸入代行業者による補償は受けられます）。

参考

<https://www.nhs.uk/vaccinations/mmr-vaccine/>

破傷風・ジフテリア・無細胞百日咳混合（Tdap）ワクチン

商品名：ブーストリクス

Tdapワクチンは、破傷風、ジフテリア、百日咳に対する予防効果をもたらします。

目的

Tdapワクチンは次の感染症への免疫を強化します。

- ・破傷風
- ・ジフテリア
- ・百日咳

破傷風は傷口から侵入した破傷風菌が毒素を放出することで、筋肉が引きつるなど、特有の症状が出る病気です。一旦発症すると死亡率が高く、危険な病気です。破傷風菌は土壌中に広く分布しており、小さな傷からも感染するため、ワクチン以外の方法で予防することは困難です。

ジフテリアはジフテリア菌による上気道の感染症で、重症化すると、呼吸困難、心不全、呼吸筋麻痺などにより死亡することがあります。日本では20年以上ジフテリア感染者の報告はありませんが、世界的には感染が流行している地域もあり、海外渡航時または渡航者からの輸入感染に備えるべく免疫をつけておくことが重要です。

百日咳は百日咳菌による咳を主体とした気道感染症で、乳児がかかると呼吸器不全などで命に関わる可能性があります。終生免疫が得られないため、何度でも百日咳にかかる可能性があり、乳児のいる家族や乳児と関わる仕事に就いている人は、免疫をつけておくのが望ましい疾患です。

対象者

小児に用いる三種混合ワクチンは、破傷風トキソイドが少なめで免疫がつきにくく、逆にジフテリアトキソイドは多く、副反応が出やすい傾向があります。これらの成分量を成人向けに調整したものがTdapです。

すべての思春期・成人に百日咳含有ワクチンの追加接種が望ましいです。とくに乳児に接触する可能性のある子どもや成人（妊婦・その家族）、医療従事者は優先度が高いです。また、米国の留学の際は留学先から接種を推奨されることがあります。

接種不適当者

Tdapワクチンやその他の破傷風、ジフテリア、百日咳ワクチンによる強いアレルギー症状（アナフィラキシーなど）を起こしたことがある場合以外に禁忌はありません。